

# 日本史探究における公民としての資質・能力の育成を目指した授業

—室町時代の差別や抑圧の授業開発とシンポジウムの協議内容とその考察—

地歴公民科 青山昌平

新学習指導要領では、地理歴史科の科目が大きく再編された。新学習指導要領では、「公民としての資質・能力の育成」が公民科目だけでなく歴史科目にも組み込まれ、「探究」を取り入れた新たな授業が求められている。その中で、「公民としての資質・能力」の育成と探究学習の要素を取り入れたカリキュラム開発を目指している。今回は「日本史探究」において、「公民としての資質・能力」の育成を目指した室町時代の学習から、授業の効果を検証する。

<キーワード>新学習指導要領 日本史探究 公民としての資質・能力

## 1. はじめに

平成 30 年度告示の新学習指導要領において、地歴公民科では科目が大きく変更された。特に、地理歴史科では、「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」と探究の名のつく科目が新設された。その中で「日本史探究」の目標と内容で二点注目した。一点目は、「日本史探究」の目標で、「社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成」が挙げられていることである。目標の後半部分では、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」という目標が設定され、「公民としての資質・能力」が公民科だけでなく、歴史教育の目標として設定された。長らく主権者教育の必要性が訴えられてきた背景もあり、歴史学習においてどのような授業内容や方法が公民としての資質・能力を育成できるのか考えるきっかけとなった。注目した二点目は、大項目 D に設定された「近現代の地域・歴史的環境 (4) 現代の日本の課題の探究」である。これは、大項目 D のまとめといえる内容になっている。そして、「歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を理解すること。」や「歴史の面期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現すること。」を身に付けることが求められている。つまり、日本史探究の最後の探究学習では、今までの学習を踏まえた現代の日本の課題を取り扱うことになり、ここでは、これまでの学習で培ってきた歴史的背景や経緯、変化や継続といった知識・理解を多面的・多角的に捉えなおして、現代の日本の課題の考察につなげていくものだと考えることができるだろう。

以上のように、今回「日本史探究」の学習指導要領で注目した二点を挙げた。この二点は、「現代の日本の課題の探究」の学習に取り組むことで、「公民としての資質・能力の育成」という目標の達成に近づくことが想定でき、密接なつながりがあると考えている。そこで、今回は、「公民としての資質・能力」と「現代の日本の課題の探究」に注目した授業実践を行い、これらの学習を通して生徒にどのような変容があったのかを検討し、「公民としての資質・能力の育成」を目指した授業の効果を明らかにしていきたい。

## 2. 実践に向けた準備—研究テーマの焦点化—

### (1) 歴史教育の中で育む公民としての資質・能力の設定

歴史学習の中で公民としての資質・能力を身に付けた生徒像として、「現代に生じる社会課題に関する歴史的経緯を学んで知識を獲得し、社会課題に敏感になり、課題に対して議論ができ、課題解決に参画できる生徒」を設定した。これは、文部科学省の「今後の主権者教育の推進に向けて（最終報告）」（2021）や「次代の主権者育成に求められる 政治的・経済的教養の教育に関するタスクフォース 取りまとめ」（2022）で述べられている、正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、生徒同士で議論や合意形成を図っていく過程を重視することや、具体的な事象に対して多面的・多角的に議論を展開することが必要であるという主権者教育に関する報告を参考にして設定した。さらに、「自発的に自分の力で現実の社会的な問題を解決できるという主権者としての感覚を身に付けるようにしていくことが重要である」と報告にあり、この部分について、「現実の社会的な問題を解決できる」という感覚を身に付けるためには、現実の社会に存在している問題に気付けることが必要だろう。そのため、生徒たちが生きる現実の社会の問題につながる歴史を学ぶことで、問題に気付くようになり、この問題について考えることが「主権者としての感覚」につながり、この主権者としての感覚を養うことを目指すことは、「公民としての資質・能力」の育成につながるのではないかと考えた。

### (2) 学習テーマの設定—抑圧や差別に関する歴史—

今回、現代に生じる社会課題としては、「抑圧や差別」をテーマとした。このテーマとした理由は三点ある。一点目は、筆者が戦争の学習をきっかけに抑圧や差別といった社会課題に興味・関心を持ったからである。二点目は、本校が使用している教科書『日本史探究』（実教出版）に、抑圧や差別に関する内容が多くあり、授業に取り上げやすいと考えたからである。三点目は、現代の抑圧や差別の問題には歴史的背景や経緯が多く、歴史学習と現代の日本の課題がつながりやすいテーマだと考えたからである。

## 3. ここまでの授業

差別や抑圧の問題を各時代で学び、その中で得た知識、見方・考え方を使って現代の問題を探究することが有効ではないかと考えた。そのため、古代・中世・近世・近代と学習を重ね、現代の探究学習につなげることを目指している。シンポジウムまでに平安時代と鎌倉時代で授業を行った。授業では、教科書の記述からつなげることを意識し、自分たちが学んでいる内容と大きく離れていない意識をもつことができるようにした。3時間構成を基本とし、第1時は、導入として学習テーマと出会い、第2時では、差別や抑圧の原因や理由、当時の社会背景などを学び、第3時では差別の構造化や現代との接続を考察する展開とした。

表1 平安時代と鎌倉時代の授業単元

(授業は、2年生日本史選択者33名で実施した。)

| 単元1 古代の差別や抑圧について<br>「差別とは、どのように社会の中に形成されるのか？古代の事例から考えてみよう。」 |  |
|---|--|
| 各授業テーマ  | 学習内容など                                       |
| 1. 差別や抑圧の授業の導入<br>【身の回りの差別や抑圧への自分の関心は？】                     | 自分の意識や興味・関心の認識とグループ協議                        |
| 2. 古代に形成された差別や抑圧<br>【古代の日本で、ケガレ穢に由来する差別はどのように形成されたのか？】      | 「差別の発生」、「浄土教と貴族社会」、「役割を任せる人々と引き受けた人々」でジグソー学習 |
| 3. 古代に形成された差別と現代<br>【古代で形成された差別や抑圧は、現代にも通ずるところはあるか？】        | 前時のまとめを活用し、古代の差別や抑圧が現代につながっているかを考察           |

| 単元2 鎌倉時代の差別や抑圧について<br>「包摂」と「排除」の構造は現代にも存在しているだろうか？鎌倉時代の事例から考えてみよう。 |  |
|--|--|
| 各授業テーマ   | 学習内容など   |
| 1. 『一遍上人絵伝』から見る鎌倉時代の差別<br>【鎌倉時代の仏教による差別の救済にはどのようなものがあったのか？】        | (1) 『一遍上人絵伝』から見る鎌倉時代の差別<br>(2) 「救済」した人々              |
| 2. 鎌倉時代の差別や抑圧<br>【鎌倉時代にはどのような差別が存在したのか？】                           | 「一遍による救済とその理由」、「叡尊と忍性による救済とその理由」、「被差別民が担った役割」でジグソー学習 |
| 3. 差別や抑圧の構造<br>【「包摂」と「排除」と「救済」の構造はどうなっていたのか？】                      | (1) 「包摂」、「排除」、「救済」の構造化<br>(2) 現代の差別への転用              |

#### 4. 室町時代の授業（シンポジウム実施授業）

##### (1) 単元構想

表2 室町時代の授業単元

| 単元3 室町時代の差別や抑圧について<br>「中世の差別と自力救済社会の関係は現代とどのようなつながりがあるか？」      |   |
|--|---|
| 各授業テーマ   | 学習内容など  |
| 1. 室町文化の被差別者<br>【室町時代の文化と抑圧や差別にはどのような関係があるか？】                  | (1) 室町文化の内容<br>(2) 庭園や芸能に関する被差別民について知る<br>(3) 差別される対象だった理由            |
| 2. 被差別者たちと自力救済社会<br>【「被差別者たちはどのように自分の立場を守っていたのだろうか？】           | 「世阿弥のような芸能者」、「葬送儀礼の独占と対立」、「皮革業の独占と対立」でジグソー学習                          |
| 3. 差別や抑圧の構造（シンポジウム実施授業）<br>【「包摂」と「排除」の構造と自力救済社会の関係はどうなっていたのか？】 | (1) 中世をとおして形成されていた差別の構造とは何だったか？<br>(2) 差別や抑圧が発生してしまう社会の構造とは何だろうか？     |
| 4. 室町時代と現代の差別の問題を比較<br>【室町時代に学んだ差別や抑圧を現代の問題と比較し、類似点や相違点を考えよう。】 | (1) 室町時代に学んだ差別や抑圧自分の立場を守ろうとしている様子<br>(2) 室町時代と現代の差別の問題を比較したときの類似点や相違点 |

当初は3時間構成として、シンポジウムの公開授業では3時間目を実施した。そこで、単元で学んだ内容と現代との接続の考察のつながりが生徒に不足しているのではないかという指摘を受け、急遽、4時間目を足すことにした。生徒の気づきを期待して、室町時代の学習の制限をつけなかったが、学習の流れや考察の強化を考えると、2時間目に学んだときの3つの視点を活用した現代との接続を考察させたほうが効果が高い授業になったのではないかと感じた。

##### (2) 授業後の意識調査結果の変化

表3 意識調査の結果（人）

|  |           |           |           |           |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ①現代の社会にある抑圧や差別に関する社会課題を考えるために歴史的な背景や原因を学ぶ意味があると思いますか |           |           |           |           |
|  | 事前(33)    | 単元1(32)   | 単元2(31)   | 単元3(29)   |
| 非常に思う  | 30.3%(10) | 62.5%(20) | 64.5%(20) | 55.2%(16) |
| やや思う   | 48.5%(16) | 35.5%(11) | 32.3%(10) | 41.4%(12) |
| どちらともいえない  | 12.1(4)   | 3.2%(1)   | 3.2%(1)   | 3.4%(1)   |
| あまり思わない  | 9.1(7)    | 0%(0)     | 0%(0)     | 0%(0)     |
| まったく思わない   | 0%(0)     | 0%(0)     | 0%(0)     | 0%(0)     |

| ②現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題と自分にかかわりがあると思いますか。 |           |           |           |           |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|
|  | 事前(33)    | 実践 1(32)  | 実践 2(31)  | 実践 3(29)  |
| 非常に思う                                    | 9.1%(3)   | 34.4%(20) | 38.7%(12) | 37.9%(11) |
| やや思う                                     | 54.5%(18) | 53.2%(11) | 54.8%(17) | 58.6%(17) |
| どちらともいえない                                | 15.2(5)   | 12.5%(1)  | 0%(0)     | 3.4%(1)   |
| あまり思わない                                  | 21.7(7)   | 0%(0)     | 3.2%(1)   | 0%(0)     |
| まったく思わない                                 | 0%(0)     | 0%(0)     | 3.2%(1)   | 0%(0)     |
| ③現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題に自分から参加しようと思いますか。  |           |           |           |           |
|  | 事前(33)    | 実践 1(32)  | 実践 2(31)  | 実践 3(29)  |
| 非常に思う                                    | 3.0%(1)   | 18.8%(6)  | 19.4%(6)  | 24.1%(7)  |
| やや思う                                     | 45.5%(15) | 53.1%(17) | 54.8%(17) | 51.7%(15) |
| どちらともいえない                                | 42.4(14)  | 21.9%(7)  | 16.1%(5)  | 17.2%(5)  |
| あまり思わない                                  | 9.1(3)    | 6.4%(2)   | 9.7%(3)   | 6.9%(2)   |
| まったく思わない                                 | 0%(0)     | 0%(0)     | 3.2%(1)   | 0%(0)     |

調査項目①～③のすべてで、事前調査から実践1の平安時代にかけての変化が一番大きい。実践1の平安時代から実践2の鎌倉時代では意識の変化がみられるが、実践2の鎌倉時代から実践3の室町時代にかけては、大きな変化が見られない。

### (3) 振り返りの記述の様子

表4 実践3の振り返りの記述

(複数の要素が書かれている場合は、その都度計上)

| ①学習を振り返り、新たに気づいた点や自分の理解や関心がどのように変わったのか書いてみよう。  |     |
|--|-----|
| 記述の分類  | 人数  |
| 差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述  | 3人  |
| 新たに学びたいこと、授業を通してわかったこと・気づいたこと  | 18人 |
| 現代の問題とのつながりに関しての記述   | 12人 |
| <b>記述の例</b><br>「室町時代の差別されていた人たちが担う役割と現在ある職業に対する差別、抑圧の問題を照らし合わせることで現在でも似たような人たちがいるとわかった。でもその差別や抑圧はSNSの発展などにより誹謗中傷は激しさを増したのではと思った。」<br>「今回の学習を通して気づいた事は、昔における差別や偏見は現代にも通じていると言う事です。差別される人々は立場をも守るための工夫をして自分を守ってきたからこそ現代では、差別をしてしまう側の考え方を考える取り組みが重要になってくると思いました。なので私自身もボランティアなど積極的に取り組みたいです。」 |     |

| ②今後の自分に生かすことができる視点や、次に学習したいと考えたことは何か。   |     |
|---|-----|
| 記述の分類   | 人数  |
| 差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述   | 7人  |
| 次の学習に向けての記述   | 19人 |
| 現在の問題を考える視点が入っている記述   | 7人  |
| 記述の例<br>「現代との相違点の視点は面白いなと思いました。室町の文化は今現代に繋がっているのどどのようなようになっていったのかを知りたいです。」<br>「自分の生活に必要な不可欠なものでも、差別抑圧を受けながらそれを用意してくれてる人がいることがわかったので、ちゃんと他人事じゃなくて考えることが大切だと思った。」 |     |

実践3の室町文化に関連した授業では、室町文化に関連した被差別民の事例を学び、この事例は現代ではどのようなになっているかを調べ、室町時代と現代の類似点や相違点を考察した。そのため、今までの振り返りの記述よりも明確に、現代の問題を意識した振り返りの記述があった。そのような記述の中には、室町文化の差別を学んだ文脈で現代の問題に触れており、歴史を学んでいく中で現代の問題に意識を向けていく、本実践の成果が見られる部分があった。

また、次の学習に向けて、さらに学びたいことや考えたいことを書いてある記述が多かった点も実践3の振り返りの特徴と言える。

#### (4) 意識調査と振り返りの記述から見える実践の成果と課題

##### 1) 成果

差別や抑圧の授業を受ける前に比べると、差別や抑圧に関する問題への意識の高まりが見られた。特に、差別の原因や理由を歴史を通して学んでいく意義を生徒が感じている様子や、現代の課題の考察するきっかけとなっている様子があった。また、歴史における差別の様子と現代の差別の様子を比較し、相違点や類似点を考察することで、現代の社会問題の相対化が図れている生徒も一部いた。このような様子から、差別や抑圧といった社会課題に敏感になる可能性が十分ある授業であるといえる。

##### 2) 課題と改善策

意識の変化がみられていない生徒や、振り返り内容の記述の深まりがない生徒がいた。このような原因の一つに、今までの自分の学習内容や、自分の学びの様子を振り返れていないことが考えられる。そのため、自分の今までの考えたことや感じたことなどの学びの様子を振り返られるように、生徒一人ひとりに今までの自分の学びをフィードバックしていきたい。

また、社会課題の解決に参加する意欲や社会課題に対する当事者意識の醸成が不足していた。そのため、「自分とどのような関わりがあるのか？」という認識を深めることや、「どのように課題を解決していけるのか？」を歴史から学び、課題解決について議論する学習時間を確保していきたい。その中で、自分との関わりや課題解決方法と課題解決への参加について、他者と議論していく中で、自分の認識を広げ、考えを深めていけるようにしていきたい。

#### 5. 研究協議会の記録と学び

公開授業後に行われた研究協議会で出た質問や意見、それに対する応答など、今後の教材開発やカリキュラム開発に取り込んでいくための内容を以下のようにまとめた。

|   |
|---|
| <p>1. 「公民」としての捉え方はどの範囲なのか？なぜ「国民」ではないのか？</p> <p>社会の形成者としての自覚や主権者としての感覚を身に付けることや公民としての資質・能力を身に付けることが求められている。これらは、生徒自身がこの先所属する「社会（コミュニティ）」の中で発揮し、活躍するために必要な資質・能力であると解釈できる。そのような中で、「国民」だと日本全体をさすことになり、日本にいるのは日本国民だけでなく様々な国にルーツを持つ人たちも存在している。そう考えると、様々な社会（コミュニティ）の構成員という意味が与えられる「公民」が適切である。この「公民」という意識や自覚が生じるカリキュラムや授業が今後必要になってくる。</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p>2. 日本史探究の中で、差別・抑圧の歴史を学ぶ部分は歴史学習と言えるが、公民としての資質・能力や現代の課題の意識が強まると、それは公民科の学習で歴史の学習と言えるのか？</p> <p>この指摘から、今回では4時間目を追加し、「室町時代に見られた差別は現代につながっているか?」、「室町時代の差別や現代の差別の問題の相違点と類似点は何か?」を考察させた。これにより、過去と現代との接続や、過去の現在の価値観や社会問題の相対化ができてきている生徒がいた。現代の問題に対してより興味・関心を持ったり、学習意欲が増したりする姿があったため、歴史を学んで現代の問題を考えることは重要である。</p> |
| <p>3. 「包摂」と「排除」のような2面性を問うテーマは、歴史総合で求められる学習の視点との接続が感じられるが、今後、日本史探究と歴史総合の接続をどう考えているか？</p> <p>歴史学習における見方・考え方を身に付ける基礎科目として歴史総合が設定された。そのため、歴史総合で身に付けた、見方・考え方や資質・能力を探究科目で活用や発展できるように科目間の接続を意識することでより高めていく。そのため、今後は、科目内の単元開発だけでなく、歴史科目での3年間のカリキュラム編成が今まで以上に必要になる。</p>  |
| <p>4. 今までのペーパーテストでは評価しづらい論争問題の学習などの評価について、価値注入に陥らない評価方法とはどのようなものか？</p> <p>教師の考え方や価値観は、個人のものであることを示しつつ、価値注入にならない評価を行う必要がある。ルーブリックなど客観的な判断ができる要素のみ評価したり、評定のためではなく、生徒の学習改善のための評価を意識することが必要である。</p>   |
| <p>5. 当事者意識を持たせ、自分事として学ばせるために必要なことは何か？</p> <p>生徒が身近に感じられるように、学習テーマとどのように出会わせるかが重要である。この教材との出会わせる部分は小学校のほうに念入りに行っていると感じる。そのような他校種の実践なども取り入れつつ、「学ぶに値する内容であること」や「自分との関わりがあること」を生徒が実感したうえで授業に取り組める授業開発が必要である。</p>   |
| <p>6. 社会構造を歴史的に見て、それを現代に応用する、歴史の文脈の中での現代の考察ができるようにしないと、歴史学習と公民としての資質・能力の育成が難しいのでは？</p> <p>近現代の歴史学習では、現在の私たちの問題と関連させやすくなるため、重点的に行うことも有効である。現代と接続できる題材の時に、逃さず実施することが必要である。</p>  |

## 6. 謝辞

本実践を行うにあたり、授業設計や実践について、愛知教育大学社会科教育講座の真島聖子先生に助言、ご指導いただきました。この場で、改めて、お礼申し上げます。

## 引用及び参考文献

- ・文部科学省：高等学校学習指導要領（平成30年告示）  
[https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt\\_kyoiku02-100002604\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf)
- ・文部科学省：【地理歴史編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説  
[https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt\\_kyoiku02-100002620\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf)
- ・文部科学省：今後の主権者教育の推進に向けて（最終報告）（令和3年）  
[https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt\\_kyoiku02-000013640\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_kyoiku02-000013640_1.pdf)
- ・文部科学省：次代の主権者育成に求められる政治的・経済的教養の教育に関するタスクフォース取りまとめ  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/ikusei/220809-mxt\\_kyoiku01\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/220809-mxt_kyoiku01_01.pdf)
- ・星 瑞希「歴史論争問題学習の指導と評価の方略—生徒の価値や思想が含まれる言説構築をいかに指導し、評価するか—」社会系教科教育学研究 2022年 第34号 p.21-30
- ・高知県庁：人権教育資料集1（同和問題）つながり  
[https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2009111100164/2009111100164\\_202\\_254\\_165\\_145\\_uploaded\\_attachment\\_18527.pdf](https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2009111100164/2009111100164_202_254_165_145_uploaded_attachment_18527.pdf)
- ・磯前順一・吉村智博・浅居明彦「巻頭言」（磯前順一ほか編『差別と宗教の日本史—救済の〈可能性〉を問う』法蔵館、2022年）
- ・佐々田悠「古代日本の罪と穢れ」（磯前順一ほか編『差別と宗教の日本史—救済の〈可能性〉を問う』法蔵館、2022年）
- ・勝浦令子「穢れ観の伝播と受容」（佐藤文子・上島亨編『日本宗教史四 宗教の受容と交流』吉川弘文館、2020年）
- ・加藤公明「第4章 民主社会の担い手を育てる歴史教育」（加藤公明『考える日本史授業3 平和と民主社会の担い手を育てる歴史教育』地歴社、2007）
- ・外川正明『部落史に学ぶ2 歴史と出会い未来を語る多様な学習プラン』解放出版社、2006年）